

昭和村人物伝(3)

金子重平

利根シルク(株)の初代社長

『利根沼田の人物伝』(高山正著・上毛新聞社)に掲載された、村にゆかりのある人物の中から、今回は利根シルク初代社長を務めた金子重平を紹介する。



金子 重平

金子重平は、明治34年7月、糸之瀬村糸井中内出の金子貞寿(さだひさ)の長男として生まれた。金子家は豪農で、父貞寿は糸之瀬村長を務めた。父の影響を受け、後に重平も政治家を志した。

大正8年、沼田中学校(現在の沼田高等学校)を卒業すると糸之瀬小学校に教員として赴任したが、田舎の生活を嫌って一年で飛び出し東京に出た。朝に巨万の富をつかみ、夕には無一文になることもある株屋で働いた。無鉄砲な性格は、この頃の影響が大きいと思われる。

大正14年、24歳で糸之瀬村青年団長を務めたのを皮切りに、利根郡連合青年団理事、糸井区長、消防部頭などを歴任。若くて意気盛んなことで、利根郡内に知られる存在となった。この頃、叔父で政友会代議士の増田近作の秘書を勤め、その縁で中島飛行機の創立者、中島知久平に認められるところとなり数々の教えを受けた。

昭和17年、41歳で糸之瀬村議会議員に当選。昭和22年には、46歳で戦後初の県議会議員選挙に利根郡から立候補して当選し、2期8年活躍した。地元では昭和29年、国有林の払い下げに尽力した。議員活動以外にも活発で、昭和10年代から糸之瀬農業会長、農協組合長、利根郡の各役員、県の森林組合副会長と、農林業界に確かな足跡を残した。自らも数々の事業をおこし、沼田市に利根シルク株式会社を設立。従業員318名、利根沼田最大の事業所だった。重平は、昭和27年まで社長として経営にあたる一方、国会議員に再三挑戦したがかなわず。昭和51年、74歳で没した。

参考 糸之瀬村誌

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



地域包括支援センターだより

成年後見制度をご存じですか

～こんな悩みごとありませんか～

お金の管理が心配

悪い人に騙されて買い物や契約をさせられそう

判断能力に心配がある子どもの将来が不安

老後の財産管理が心配

①成年後見制度とは？

認知症、障がいなどがあることで意思能力が低下・喪失してしまった人に代わり、本人の気持ちを大切にしながら、生活や財産を守る、契約を代わりに行うなど、法的に様々な支援を行う制度です。



②成年後見制度を利用するには？

家庭裁判所に申立をして、成年後見人などを選任してもらう必要があります。まずは、役場や地域包括支援センターにご相談ください。

③どんなことをしてくれるの？

- ・不利益な契約の取り消し
- ・定期的な訪問や見守り
- ・書類の確認と手続きのお手伝い
- ・通帳の保管や支払いの手続き など

④成年後見人等に支払う報酬は？

家庭裁判所が、成年後見人などが行った事務の内容や本人への負担などを考慮して決定します。

▶問合せ

保健福祉課 ☎24-5111
 地域包括支援センター ☎20-1126
 (昭和村社会福祉協議会内)

